

第4回学習会

京都朝鮮学校襲撃事件とは何であったか ～埼玉県朝鮮学校補助金停止問題を考えるもう一つの視点～

誰もが共に生きる埼玉をつくる学習会

主催 誰もが共に生きる埼玉を目指し、埼玉朝鮮学校への補助金支給を求める有志の会

<https://tomoni-saitama-koreanschool.org>

2009年12月、京都市南区にあった京都朝鮮第一初級学校（当時）の校門前で、「在日特権を許さない市民の会（在特会）」を名乗るメンバーら10数名が「スパイ養成機関」「叩き出せ」「ゴキブリ」などの差別的な罵詈雑言を1時間以上にわたって拡声器等で叫び続けるという、いわゆる「京都朝鮮学校襲撃事件」が起こりました。子どもたちと教師が怒号にさらされ続けましたが、通報を受けて駆けつけた警察は暴言を止めさせようとしませんでした。教職員や保護者は日本の法制度下で闘うことを決意し、裁判では刑事、民事で勝利を勝ち取り、その後のヘイト規制論議に繋がりました。

人を「何をしてもいい存在」に貶めることは許されることではありません。このような言動を「おかしい」と感じることは、ごく当たり前の人としての感覚です。「ヘイトスピーチ解消法」のような差別的言動の解消を目指す法整備が、日本社会で進むことは歓迎すべきことです。しかしながら、ヘイトスピーチに違和感を覚えたり、反対の声を上げたりする市民や政治家の中にも、朝鮮学校に対する制度上の差別に無関心、あるいは是認するような風潮があるのも事実です。

今回の学習会では『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件—〈ヘイトクライム〉に抗して』の著者をお呼びし、「襲撃事件」への眼差しを、埼玉県でも10年が経とうとしている「朝鮮学校補助金停止問題」に向けることで、ヘイト規制から抜け落ちた「視点」を考える機会にしたいと思います。

講師：中村 一成（ナカムラ・イルソン）

1969年、大阪府生まれ。在日朝鮮人や定住外国人、難民を取り巻く問題や、死刑などをテーマに執筆。映画評も執筆している。著書に『声を刻む 在日無年金訴訟をめぐる人びと』（インパクト出版会、2006年）、『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件』（岩波書店、2014年）、『ルポ 思想としての朝鮮籍』（岩波書店、2016年）、『「共生」を求めて』（共著、解放出版社、2019年）、『映画でみる移民／難民／レイシズム』（影書房、2019年秋刊行予定）など。



ゲストスピーカー：朝鮮大学校学生

事件当時、初級部5年生であった学生に、事件以来10年の思いをお話していただきます。

学習会について

日本には在日朝鮮人の子どもたちが通う数多くの朝鮮学校があります。朝鮮学校は日本の敗戦後、在日朝鮮人がみずからの言葉や文化を取り戻すために、自主的に設立した学校です。自治体によっては他の民族学校へは補助金を支給しているにもかかわらず、朝鮮学校だけがその対象外になっているケースがあります。

埼玉県にも、埼玉朝鮮初中級学校があり、200人を超える子どもたちが、民族の歴史や文化、言語を学んでいます。埼玉県がこの学校への補助金を打ち切って10年になります。わたしたちは埼玉朝鮮初中級学校に通う子どもたちが、日本の学校や他の民族学校の児童生徒たちと平等に教育を受けられるように、埼玉県へ補助金再開を働きかけながら、現状を多くのひとびとと考え合うために、学習会を開催しています。

日時：2019年9月27日（金）
18:30～20:30（18:15受付開始）

参加費：無料

問い合わせ：tomoni.saitama@gmail.com

会場：埼玉会館 7階 7A 会議室

さいたま市浦和区高砂 3-1-4

※会議室へは県庁通り沿いの車寄せにある入り口からお入りください。）



※会の趣旨に反対する方、主催者判断にて会の進行を妨害する恐れのある方の入場をお断りします。